

武蔵国分寺跡資料館だより

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum Newsletter

編集・発行・印刷

見る／学ぶ／訪ねる／
武蔵国分寺跡資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

【住所】 〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10
【電話】 042-323-4103 【FAX】 042-300-0091
【E-mail】 museum@city.kokubunji.tokyo.jp
【HPアドレス】
http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/1733/009819.html

2012.7
第11号



武蔵国分寺跡資料館 平成24年度夏季展示

夏休みは資料館へ行こう

— 国分寺の思い出さがし —



明日華姫ちゃん

夏休みに合わせて昭和の夏に撮影された国分寺市内の写真パネルと、浜野栄次昆虫コレクションの展示を行います。

平成24年
7月21日(土)
▼
8月31日(金)

【開館時間】 午前9時～午後5時
(入館は午後4時45分まで)
【休館日】 月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)
年未年始(12月29日～1月3日)
【入園料】 「おたかの道湧水園」への入園料が必要

国分寺市の夏風景

国分寺市は、昭和31年から町報・市報に掲載するための写真をこれまでに数万枚撮影してきました。このような写真は、国分寺町からの町・市内の様子や出来事を記録したとても貴重なものです。

国分寺市教育委員会では劣化の恐れがあるフィルムや写真のデジタルデータによる現状記録保存と活用を目的として、平成23年度からデータ化の作業を進めています。今回は、すでに作業を終えた写真をもとに、昭和30年代から50年代の夏に撮影された市内の写真を紹介します。

木造の校舎や夏のプール、なつかしい商店街の風景、夏休みのイベントなど、むかしの風景をたどって国分寺市の思い出をさがしてください。



武蔵国分寺跡 <昭和36年(1961)7月>

僧寺金堂跡を南から撮影した写真です。史蹟(跡)指定碑の後ろにある大木は、地元の人に「新田義貞の松」と呼ばれていた一本松です。推定樹齢数百年の古木は、長いあいだ武蔵国分寺跡の移り変わりを見守ってきましたが、枯木となり昭和40年6月に伐採されました。



夏休み巡回親子幻灯会 <昭和40年(1965)7～8月>



国分寺駅北口通り <昭和39年(1964)7月>

浜野栄次昆虫コレクション

平成4年(1992)に国分寺市へ寄付された「浜野栄次昆虫コレクション」は、昆虫図鑑などの製作のために浜野栄次氏が長年にわたって採集、あるいは入手されたものです。

標本は「南米の蝶」、「アフリカの蝶」、「全北区などの蝶」、「東洋熱帯の蝶」、「台湾の蝶」、「日本の蝶」、「世界・日本の蛾」、「世界の甲虫など」、「日本の甲虫」、「日本のトンボ」、「日本の昆虫」に大きく分類してあり大型標本箱が153箱、中型標本箱が18箱の計171箱です。

このコレクションは日本産の蝶・甲虫類を中心に、外国産の大型昆虫類や、蝶・甲虫以外の虫たちの標本がバランスよくそろっているのが大きな特徴で、昆虫の各分野の専門家しか所蔵していないような資料も含まれています。

普段は見られない貴重な標本を浜野氏の撮影した写真とともにご覧いただければ幸いです。



クワガタムシのなかま

名前は、大あごが武士の兜の飾りである鍬形に似ていることに由来します。卵から成虫になるまでに、1年以上かかり、越冬して数年生きるものもいるので、カブトムシより長生きです。オオクワガタのように体の大きなものから、ルリクワガタのように1センチメートルほどの小さなものまで様々な種類があります。

国分寺市内では、ノコギリクワガタ、コクワガタ、スジクワガタ、ヒラタクワガタの生息が確認されています。

故浜野栄次氏の略歴

大正12年(1923)、東京上野に生まれる。第一東京市立中学校(現:都立九段高校)、明治大学を卒業。

就学前から昆虫、とくに飼育に興味をもち、東京都三鷹市井之頭にあった平山博物館の館長平山修次郎氏に昆虫について教をうけました。また戦後は暮しの手帖社の松本政利氏に写真を学び、さらに同社編集長の花森安治氏のすすめにより、昆虫写真専門を志しました。

昭和39年(1964)より東南アジア各国の昆虫を撮影取材し、とくに台湾は30数次にわたって訪れ、その集大成が『台湾産蝶類生態大図鑑Ⅰ・Ⅱ』となって結実しました。

主な著書に『昆虫生態図鑑Ⅰ・Ⅱ』、『昆虫という世界』、『カラー歳時記・虫』、『熱帯アジアの昆虫』などのほか児童物の著作もあります。

国分寺市泉町に30数年間住み、昆虫生態写真の草分けとして活躍していましたが、平成4年(1992)春に没しました。享年69歳。



アゲハチョウのなかま

アゲハチョウの幼虫は、サンショウなどミカン類の葉、キアゲハはセリやニンジンなどの葉、というように、種類によって餌にする植物が異なります。

美しい大きな翅でゆったりと飛ぶ優雅な姿は、昔から人々に注目されていたようで、このチョウをモチーフとした家紋を平家が用いていました。

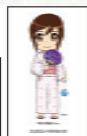
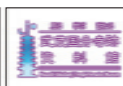
外国のアゲハチョウには翅を広げると20センチメートルを超える大きなものや、美しい色の翅をもつものがあります。浜野氏はそれらのチョウを求めて台湾、マレーシアなど海外にも度々足を運び、昆虫の撮影や採集を行っていました。

● 夏季展示関連イベント

キッズ ワークシート (子ども向け)

ワークシートの質問に答えたら、武蔵国分寺跡資料館のオリジナルシールをプレゼント!

シールは全部で3種類。



展示標本

カブトムシ、コガネムシ、クワガタムシ、カミキリムシ、オサムシ、トンボ、セミ、アゲハチョウ、モンキチョウ、シロチョウ、シジミチョウ、タテハチョウ、セセリチョウ

(夏季展示担当学芸員 増井有真・坂上恵梨)

Mobile Exhibition

武蔵国分寺跡資料館巡回ミニ展示



古代道路を掘る

— 東山道武蔵路の調査成果と保存活用 —

武蔵国分寺跡資料館で過去に開催した特別展「古代道路を掘る—東山道武蔵路の調査成果と保存活用—」のミニ展示を国分寺 L ホールショーウィンドウで行います。

平成 22 年 8 月に国の史跡「武蔵国分寺跡」に追加指定された東山道武蔵路跡は、律令国家の下で整備された古代道路網のひとつ「東山道」の支路です。

展示では史跡に指定された国分寺市内の西国分寺地区・恋ヶ窪地区・旧第四小学校跡地区を中心に、はるか 1300 年前につくられた古代道路の実態を主にパネルでご紹介します。

資料館で展示をご覧いただけなかった方もこの機会にぜひご覧ください。

【展示開始】
2012 年 8 月 4 日（土）～

【観覧時間】
9：00～22：00

【会場】
国分寺 L ホール(国分寺駅ビル 8 階)ショーウィンドウ

【お休み】 駅ビルの休館日、元日

【費用】 無料

【問合せ先】 武蔵国分寺跡資料館 042-323-4103



道の祭りで使用したと考えられる「久」墨書土器
(旧第四小学校跡地区出土)

Events

国分寺・歴史文化プロジェクト 2012 第 3 回



国分寺・歴史文化プロジェクトは、国分寺市の文化財の保存と活用を市民とともに考えるプロジェクトです。

テーマ②「史跡周辺の案内板を良くしよう」では、2 回にわたって市の名前の由来でもある武蔵国分寺跡に多くの方々を訪れやすくなるように、現地及び経路上に設置する案内板について検討します。

国家プロジェクトである古代寺院の建設事業の跡を見ていただけるような、案内板の内容や設置場所について一緒に考えてみませんか？

【テーマ】 史跡周辺の案内板を良くしよう

【日時】
・ 9 月 8 日（土）15：00～17：00
・ 10 月 13 日（土）15：00～17：00

【会場】 武蔵国分寺跡資料館（講座室）

【定員】 30 名

【申込方法】 電話 042-300-0073、FAX 042-300-0091、E-メール: bunkazai@city.kokubunji.tokyo.jp、または直接ふるさと文化財課へ（先着順）。

〔※テーマ①でお申込みいただいている方は申込み不要です。〕

【参加費】 無料

【問合せ先】 ふるさと文化財課 042-300-0073

市内文化財めぐり



平安時代末に作られた重要文化財の木造薬師如来坐像（国分寺所蔵）の御開帳に合わせて、武蔵国分寺跡周辺の文化財を徒歩でめぐります（解説あり）。

【日時】 2012 年 10 月 10 日（水）
10：00～15：00（予定）

【集合】 いずみホール前（9：45）

【解散】 いずみホール前（15：00）

【見学先】 武蔵国分寺跡・真姿の池湧水群・武蔵国分寺跡資料館・薬師堂・東山道武蔵路跡など

【定員】 50 名

【募集期間】 9 月 18 日～9 月 28 日

【申込方法】 電話 042-300-0073、または直接ふるさと文化財課窓口へ（先着順）。

【参加費】 無料

【問合せ先】 ふるさと文化財課 042-300-0073

※詳細は国分寺市報 [9/1]・市ホームページでお知らせします。

来館者数

2009 年 10 月 18 日～2012 年 6 月末日

来館者数累計 44,621 名

多くのご来館ありがとうございました

月	来館者数	開館日数
4	1,342	26
5	2312 (1159)	27 (3)
6	1,261	26
計	4,915	79

○来館者数は、おたかの道湧水園の入園者数
○来館者数（ ）内は無料公開日の入園者数
○開館日数（ ）内は無料公開日の日数

【4 月～6 月の学校見学】

〔学年〕、〔人数〕、中＝中学生、高＝高校生、大＝大学生、院＝大学院生

<市内> 第十小学校〔小 6〕(60)、第一小学校〔小 6〕(58)、第九小学校〔小 6〕(63)、第八小学校〔小 6〕(64)、

<市外> 東京大学文学部日本史学研究室〔院・大 4・大 3〕(16)、早稲田実業学校〔中 1〕(246)、小金井第四小学校〔小 6〕(90)、藤沢翔陵高等学校〔高 1・2・3〕(9)

武蔵国分寺の中枢部は、堀と外側の大溝によって区画されています。南辺を区画する堀施設は、平成18・19年度の調査によって掘立柱塀から築地塀に造り替えられた痕跡が確認されていましたが、平成23年度に実施した講堂跡北側の史跡整備に伴う事前遺構確認調査でも、中枢部を区画する北辺の掘立柱塀を建てる際に使用した4基の柱穴が見つかりました。

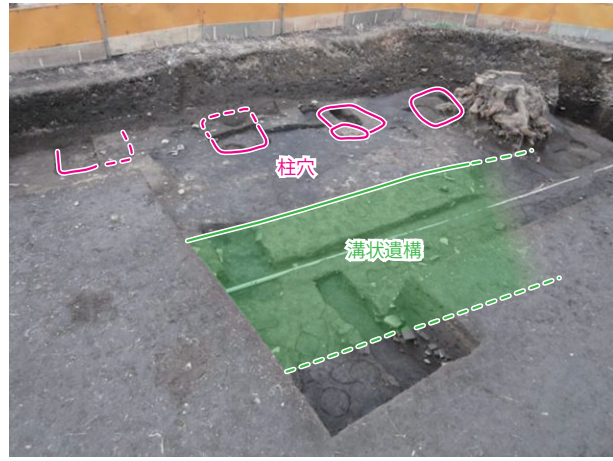
見つかった柱穴の間の距離は約2.4m(約8尺)で、柱の太さは約25～30cmと推定されます。

また、掘立柱塀の内側(南側)では南北約2.4m、深さ約0.2mの溝跡が検出されました。この溝は南辺の区画施設内側(北側)で見つかった築地塀に伴う時期の排水

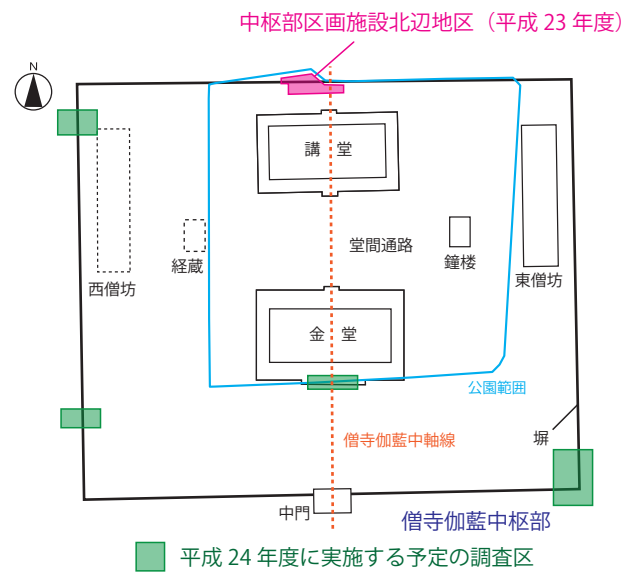
溝(推定)に似ていることから、北辺の掘立柱塀も築地塀に建て替えられた可能性が想定されます。

そのほか、伽藍中軸線より西に約3.5mと2.4mの位置から柱穴を2基確認しました。ここでは、北門が設置された可能性がある場所ですが、伽藍中軸線付近が後世に深く掘り返されてしまっているため情報量が少なく、門の柱穴かどうかは不明となっています。

平成24年度は、金堂地区の一部と、北辺に引き続き中枢部区画施設の北西、南西、南東の事前遺構確認調査を行う予定です。



北辺地区掘立柱塀・溝状遺構全景(南西から)



武蔵国分寺跡資料館ご利用案内



- 交通のご案内
- 【電車】JR国分寺駅下車/徒歩約20分 JR西国分寺駅下車/徒歩約15分
 - 【バス】国分寺市循環バス「ぶんバス」日吉町ルート「泉町一丁目」下車/徒歩約8分
 国分寺駅南口より「京王バス」系統番号(寺83)・(寺85)乗車「泉町一丁目」下車/徒歩約8分

- 開館時間
午前9時～午後5時(入館は午後4時45分まで)
 - 休館日
毎週月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)
年末年始(12月29日から1月3日まで)
※展示替えなどで臨時休館することがあります。
 - 入園料
資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。(入園券は史跡の駅で販売)
一般……………100円(年間パスポート1000円)
中学生以下……………無料
 - 【入園料の減免規則があります】
 - (1) 学校の教育活動で生徒(中学生を除く)、学生及び引率の教職員が入園するとき[事前(7日前まで)に減免申請書の提出が必要です。]
 - (2) 身体障害者及びその介護者が入園するとき[券券窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。]
 - (3) その他教育長が特別の理由があると認めるとき[事前(7日前まで)に減免申請書の提出が必要です。]
- ※減免申請書は、国分寺市のホームページからダウンロードできます。

見る 学ぶ 訪ねる

武蔵国分寺跡資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

モバイルホームページQRコード